

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年2月3日
【四半期会計期間】	第50期第3四半期（自平成28年10月1日至平成28年12月31日）
【会社名】	株式会社オービック
【英訳名】	OBIC Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 橘 昇一
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋二丁目4番15号
【電話番号】	(03)3245-6500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 経営企画室長 加納 博史
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋二丁目4番15号
【電話番号】	(03)3245-6500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 経営企画室長 加納 博史
【縦覧に供する場所】	株式会社オービック大阪本社 (大阪府大阪市中央区博労町三丁目5番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第3四半期連結 累計期間	第50期 第3四半期連結 累計期間	第49期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (百万円)	43,375	45,284	58,738
経常利益 (百万円)	22,029	23,328	29,521
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	18,179	16,683	23,157
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	16,798	19,256	20,100
純資産額 (百万円)	157,947	171,773	160,522
総資産額 (百万円)	175,688	190,460	181,522
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	203.46	187.56	259.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	89.9	90.2	88.4
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	10,205	14,060	16,656
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	4,200	384	4,377
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	9,390	8,005	10,117
現金及び現金同等物の四半 期末(期末)残高 (百万円)	76,600	88,941	82,502

回次	第49期 第3四半期連結 会計期間	第50期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	55.14	65.08

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用や所得環境の改善が続くなかで、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、米国第一主義をうたうトランプ新政権誕生による大幅な為替変動のリスクや、英国のEU離脱による欧州の政情不安など、世界経済は下振れ懸念もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当情報サービス業界においては、システムの統合や更新需要の増加等により、企業のシステム投資は回復傾向にあるものの、先行き不透明な景況感の中で投資判断には慎重さが見られました。引き続き企業のニーズは「効率的でコストパフォーマンスの高い情報システム」にあり、さらなる顧客目線でのシステム提案が求められております。

当社は、このような状況の中、製販一体体制を継続し、顧客満足度を高めるべく努めてまいりました。当社の主力である統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に幅広く求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が引き続き順調に推移しております。業種・業務別のソリューションに関しても、金融業向け、サービス業向け、流通業向け、製造業向け等、業種を問わずシステム構築の引き合いが強まりました。高まりつつあるクラウドコンピューティングのニーズにも、顧客に合わせた提案で対応しております。また、システムサポート事業も安定的に伸長し、業績に寄与いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高452億84百万円(前年同期比4.4%増)、営業利益205億4百万円(同6.2%増)、経常利益は233億28百万円(同5.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は166億83百万円(同8.2%減)となりました。

今後も当社は、顧客第一主義のもと、よりコストパフォーマンスの高いシステム提案ビジネスに注力し業績の向上に努めてまいり所存であります。

セグメントの業績は次の通りであります。

(A) システムインテグレーション事業

主力の統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が堅調に推移しております。一方で、ハードウェアの売上高は減少いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、245億87百万円(前年同期比1.6%減)、営業利益は109億31百万円(同1.3%減)となりました。

(B) システムサポート事業

当社の主力サービスであるシステムの「運用支援サービス」および「クラウドソリューション」が好調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、150億89百万円(前年同期比14.4%増)、営業利益は87億43百万円(同17.8%増)となりました。

(C) オフィスオートメーション事業

主力の業務用パッケージソフトの販売に加え、印刷サプライやオフィス家具等の販売も堅調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、56億7百万円(前年同期比8.1%増)、営業利益は8億29百万円(同1.5%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は889億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ、64億39百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、140億60百万円（前年同期比37.8%増）であります。これは主に税金等調整前四半期純利益が233億27百万円計上されたほか、利息及び配当金の受取額が13億89百万円計上された一方で、持分法による投資利益が18億26百万円計上されたこと及び法人税等の支払額が89億20百万円発生したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果増加した資金は、3億84百万円（前年同期比90.8%減）であります。これは主に投資有価証券の売却による収入が12億9百万円発生した一方で、有形固定資産の取得による支出が4億59百万円発生したこと及び投資有価証券の取得による支出が3億61百万円発生したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、80億5百万円（前年同期は93億90百万円の減少）であります。これは主に配当金の支払額が80億5百万円発生したことによるものであります。

なお、今後とも資金を企業の業績伸長のため有効に使用しつつ、「効率経営」に努めてまいり所存であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループ(当社及び連結子会社)は、コンピュータシステムの先端技術分野で今後の事業の中心となる製品の研究開発を進めており、連結財務諸表を作成する当社のシステムインテグレーション事業においてのみ行なっております。

当社の研究開発活動は、システムインテグレーション事業の総合的な観点から、主力製品であり、様々な業界・業種に幅広く適用できる統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」の研究開発を中心に、ネットワーク技術や通信技術、ハードウェアの新製品に対する検証、あるいはソフトウェアやミドルウェアに対する検証等々の幅広い分野で研究開発活動を行ってまいりました。

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は9億98百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	398,400,000
計	398,400,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年2月3日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	99,600,000	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	99,600,000	同左	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日	-	99,600,000	-	19,178	-	19,413

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 10,649,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 88,943,900	889,439	-
単元未満株式	普通株式 6,800	-	-
発行済株式総数	99,600,000	-	-
総株主の議決権	-	889,439	-

(注) 上記の「単元未満株式」には、当社所有の自己株式が33株含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社オービック	東京都中央区 京橋2-4-15	10,649,300	-	10,649,300	10.69
計	-	10,649,300	-	10,649,300	10.69

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	82,502	88,941
受取手形及び売掛金	8,904	18,498
商品及び製品	110	99
仕掛品	444	515
原材料及び貯蔵品	13	31
その他	1,737	1,214
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	93,710	99,300
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,136	3,049
土地	26,920	27,020
その他(純額)	566	731
有形固定資産合計	30,623	30,801
無形固定資産		
その他	63	54
無形固定資産合計	63	54
投資その他の資産		
投資有価証券	53,268	57,309
その他	3,858	2,996
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	57,125	60,303
固定資産合計	87,811	91,159
資産合計	181,522	190,460

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,113	3,415
未払法人税等	4,683	2,073
賞与引当金	2,342	1,345
その他	4,142	4,895
流動負債合計	14,282	11,729
固定負債		
役員退職慰労引当金	828	885
退職給付に係る負債	5,706	5,879
資産除去債務	144	146
その他	37	46
固定負債合計	6,717	6,957
負債合計	20,999	18,687
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,178	19,178
資本剰余金	19,530	19,530
利益剰余金	141,906	150,584
自己株式	22,137	22,137
株主資本合計	158,477	167,155
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,976	6,379
土地再評価差額金	1,705	1,705
退職給付に係る調整累計額	225	56
その他の包括利益累計額合計	2,045	4,617
純資産合計	160,522	171,773
負債純資産合計	181,522	190,460

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
売上高	43,375	45,284
売上原価	15,632	15,968
売上総利益	27,742	29,315
販売費及び一般管理費	1 8,427	1 8,811
営業利益	19,314	20,504
営業外収益		
受取利息	21	2
受取配当金	473	429
投資有価証券売却益	535	570
持分法による投資利益	1,657	1,826
受取賃貸料	73	25
その他	73	54
営業外収益合計	2,836	2,907
営業外費用		
賃貸費用	82	82
投資有価証券売却損	37	-
その他	0	1
営業外費用合計	121	83
経常利益	22,029	23,328
特別利益		
固定資産売却益	0	0
償却債権取立益	2,750	-
特別利益合計	2,750	0
特別損失		
固定資産売却損	14	0
固定資産除却損	0	0
会員権売却損	-	0
特別損失合計	14	0
税金等調整前四半期純利益	24,764	23,327
法人税、住民税及び事業税	6,150	6,251
法人税等調整額	435	392
法人税等合計	6,585	6,644
四半期純利益	18,179	16,683
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,179	16,683

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	18,179	16,683
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	951	2,310
土地再評価差額金	45	-
退職給付に係る調整額	54	142
持分法適用会社に対する持分相当額	528	119
その他の包括利益合計	1,380	2,572
四半期包括利益	16,798	19,256
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,798	19,256
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	24,764	23,327
減価償却費	274	291
持分法による投資損益(は益)	1,657	1,826
投資有価証券売却損益(は益)	497	570
償却債権取立益	2,750	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	49	56
賞与引当金の増減額(は減少)	955	996
役員賞与引当金の増減額(は減少)	59	60
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	0
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	261	378
受取利息及び受取配当金	495	431
固定資産売却損益(は益)	14	0
固定資産除却損	0	0
売上債権の増減額(は増加)	666	405
たな卸資産の増減額(は増加)	49	79
仕入債務の増減額(は減少)	171	301
その他	247	792
小計	19,982	21,592
利息及び配当金の受取額	1,297	1,389
法人税等の支払額	11,075	8,920
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,205	14,060
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	50	-
有形固定資産の取得による支出	190	459
有形固定資産の売却による収入	7	0
無形固定資産の取得による支出	14	5
投資有価証券の取得による支出	1	361
投資有価証券の売却による収入	1,599	1,209
償却債権の回収による収入	2,750	-
その他	-	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,200	384
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	2,910	0
配当金の支払額	6,479	8,005
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,390	8,005
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	5,015	6,439
現金及び現金同等物の期首残高	71,584	82,502
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 76,600	1 88,941

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は軽微であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理は手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が第3四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	- 百万円	2百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額は次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
給料及び手当	4,222百万円	4,286百万円
賞与引当金繰入額	474	478
退職給付費用	162	216
役員退職慰労引当金繰入額	53	56
賃借料	363	356
減価償却費	91	79
広告宣伝費	821	859

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
現金及び預金勘定	76,600百万円	88,941百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	76,600	88,941

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	3,138	利益剰余金	35円00銭	平成27年3月31日	平成27年6月29日
平成27年10月21日 取締役会	普通株式	3,341	利益剰余金	37円50銭	平成27年9月30日	平成27年11月25日

2. 株主資本の著しい変動

当社は、平成27年4月23日開催の取締役会決議により取得株数200万株、金額110億円を上限として自己株式の取得を行っております。当第3四半期連結累計期間において、自己株式を583,584株取得いたしました。この結果、自己株式が29億10百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が214億10百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

配当に関する事項

配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	4,225	利益剰余金	47円50銭	平成28年3月31日	平成28年6月29日
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	3,780	利益剰余金	42円50銭	平成28年9月30日	平成28年11月25日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	システムインテ グレーション	システムサ ポート	オフィスオート メーション	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売 上高	24,993	13,194	5,186	43,375	-	43,375
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5	-	268	273	273	-
計	24,998	13,194	5,455	43,649	273	43,375
セグメント利益	11,073	7,424	817	19,314	-	19,314

(注)1. 「調整額」の273百万円は、セグメント間取引の消去の額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	システムインテ グレーション	システムサ ポート	オフィスオート メーション	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売 上高	24,587	15,089	5,607	45,284	-	45,284
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4	-	185	190	190	-
計	24,592	15,089	5,792	45,474	190	45,284
セグメント利益	10,931	8,743	829	20,504	-	20,504

(注)1. 「調整額」の190百万円は、セグメント間取引の消去の額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	203円46銭	187円56銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	18,179	16,683
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(百万円)	18,179	16,683
普通株式の期中平均株式数(株)	89,350,468	88,950,677

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(1) 平成28年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・3,780百万円

1株当たりの金額・・・・・・・・・・42円50銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・平成28年11月25日

(注) 平成28年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

(2) その他特記すべき事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年2月3日

株式会社オービック
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	野水善之 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中井清二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オービックの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オービック及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- () 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。